

① 曹洞宗の両祖さまは

高祖道元禪師 (建長五年〔一二五三〕八月二十八日示寂 五十四歳)

大本山永平寺ご開山 (正治二年〔一二〇〇〕生) 立教の祖〔宗旨〕

太祖瑩山禪師 (正中二年〔一三二五〕八月十五日示寂 五十八歳)

大本山純持寺ご開山 (文永五年〔一二六八〕生) 開宗の祖〔宗門〕

*今の暦に直すと両祖さまの祥月命日はちようどごいっしょで、九月二十九日

『半杓の清流、鶴湾に注ぎ 単傳の正脈、斯の山に到る』

『星霜幾百、人天を利(めぐ)む』

〃 また見んと おもひし時の 秋だにも 今宵の月に ねられやはする 〃

(建長五年〔一二五三〕八月十五日中秋の明月をご覧になつて 於、京都)

(道元禪師『傘松道詠』)

② いのちの日〓命日 かぎりある生命から、かぎりないのちに

イ、命かけて、私たちに訴えている日

「生あるものは必ず死す」と、身をもつて知らせている日

口、思い出を偲んでいく、それが自分にしみこんでくる日。

♪古いアルバムめぐり ありがとうってつぶやいた いつもいつも胸の中

励ましてくれる人よ 晴れ渡る日も雨の日も 浮かぶあの笑顔

想い出遠くあせても おもかげ探して よみがえる日は涙そうそう♪

ハ、亡き人(仏様)の呼びかけに目覚めていく日。

「在りし日を思い浮かべし 亡き人の 心におもう 真の願い」

「仏様に手を合わせても、仏様の願いを聞く人は少ない」

ニ、少しでも真実に近づいていこうと決意する日。

「覚路に登らんことを」 「種智を円かにせんことを」